



## 理 念

高齢期の方々の尊厳を踏まえ、こころ温まる医療の提供と地域から愛される病院を目指します。

## 基本方針

- ① 認知症疾患の特性を踏まえ、個別性の高い医療と温かみのある療養の提供
- ② 認知症に関する介護教育と啓発活動の充実
- ③ 地域の医療・保健・福祉との一層の連携と協働
- ④ 働きがいのある職場づくり
- ⑤ 職員一人ひとりが自覚し、健全な病院運営への努力

## 患者様の権利に関する宣言

- ① 良質な医療を平等に受ける権利
- ② 選択および自己決定する権利
- ③ 意識のない患者様および法的能力のない患者様の権利
- ④ 十分な説明を受ける権利
- ⑤ 個人情報およびプライバシーを保護される権利
- ⑥ 個人の尊厳を守る権利
- ⑦ 通信・面会を自由に行う権利

## INDEX

- 表紙 福井の名所探訪③  
東尋坊(坂井市)
- P2 特別寄稿  
現在の「おい」への雑感
- P3 家族は今  
「若年性アルツハイマー病の夫」
- P4 THE病棟  
認知症看護認定看護師  
実習受入れ
- P5 講演会報告
- P6 すこやか探検隊  
家族会紹介  
認知症カフェ「心愛」
- P8 平成29年度研修案内  
(平成30年3月)

## 現在の『<sup>い</sup>『<sup>ま</sup>老い』への雑感

院長 伊藤達彦

さて何かを書かなければという事で、いろいろと考えてみたもののあまり良きアイデアが浮かんで来ない。結局、タイトルにある「老い」という事について書いてみようかと思う。



私の著名な哲学者でシモーヌ・ド・ボーヴォワール（1908-1986；明治41-昭和61）は、その大著「老い（La Vieillesse）；1970」の【はじめに】の中で、「人間は決して自然状態に生きる者ではなく、老年期においても他のすべての年齢においてと同様、彼の身分（ステータス）は彼が所属する社会によって課せられるのである」と述べている。また、【序】の中で「仏陀」の言葉として「…、わたしは未来の老いの住家なのだから」という表現が記されている。

たしかに、その通りなんだとつくづく感じるようになってきた。私感として、若き時には、余り気付きもしなかった。時すでに遅しなのだが、すごく残念な事として思えるようになった（やはり、年のせいかな！）。また、「人間は社会や他者との関係によってしか人間たりえない」との記載もある、まさに、その通りだなと思う。



月並みに、平均寿命について触れてみる。厚生労働省が公表した簡易生命表から平成28年の平均寿命は女性が87.14歳、男性が80.98歳となり、いずれも過去最高を更新したという。男性が世界四位から順位を上げ、女性とともに香港に次ぐ二位となったようである。なお、少々気になる点として、どうして香港が一位なのかと不思議な感じがする。



その定義として、心身共に日常生活に制限のない期間（「健康寿命」）は、若干古いのだが平成25年の結果では男性71.19歳、女性は74.21歳という結果であった。じゃ、福井県の結果はというと、男性は71.97歳、女性は75.09歳であった。男女共に、全国平均より日常生活に制限なき期間が長いという結果である。

一般的には、高齢者の定義は、65歳以上とされてきていた。が、日本老年医学会では下記の如くあらたな提言を行っている。

65～74歳 准高齢者・准高齢期（pre-old）

75～89歳 高齢者・高齢期（old）

90歳～ 超高齢者・超高齢期（oldest-old ないし super-old）

以上のように高齢者の新たな定義を提唱している。たしかに、今の日本という国の少子超高齢化の時期に見合ったものと感じる。



ふり返ってみると、この病院に赴任した年齢が43歳（1995年；20世紀）である。自分の意志ではないものの、それから四半世紀が経過した。考えてみると、いろんなことがあったように思う。ああすればよかった、こうすればよかったという風に…。機会があれば、あらためて言及してみたいと思う。

# 家族は今…

## 「若年性アルツハイマー病の夫」

M・Y

今から10年前のこと、夫が何度も同じ事を話したり、探し物ばかりして落ち着きのない状態が続き、物忘れ外来を受診しました。「ご主人は若年性アルツハイマー病です」と言われた時のショックは今でもよく覚えています。まだまだ働き盛りの55歳でした。この先どうなるのだろう、進行が速いといわれる病、いつまで働けるのだろうか、今までの日常生活の何がいけなかったのか、なぜ夫なのか…言いようのない怒りのような感情と不安な日々が続きました。

車で通勤していたので、毎日無事に帰ってくるまで気が気ではありませんでしたが、お陰様で何とか定年まで働くことが出来ました。

定年後は身体の健康と脳の活性化の為に、二人でウォーキングや家庭菜園をしたり、またデイサービスにも通いました。しかし日ごとに症状は進行し、辛く悲しい言動が増えていきました。一番つらかったのは、63歳の誕生日に運転免許証を返納した時の事です。運転に不安を感じた私は、夫に何度も返納を頼みました。しづしづ返納してくれたものの次の日から私に対して攻撃的になり、1日中イライラして不機嫌な日が何か月も続きました。同居する娘夫婦や孫たちが話しかけても返事すらなくなり、私たちはいつも夫に気を遣い、孫たちはじいじの機嫌を伺うようになりました。神経の休まらない日が続き、母の介護も加わり、すべてに余裕が無くなっていきました。私の身体を心配した娘夫婦が「もう入院を考えてもいいんじゃない、今までよく頑張ったよ」と言ってくれました。

悩みましたが、限界を感じ、こちらの病院で相談にのっていただき入院させていただくことになりました。「少し距離を置いた方が笑顔で接する事が出来ますよ」という看護師さんの言葉どおり、今では面会に行くと、笑顔で嬉しそうな表情を見せてくれます。

孫たちが久しぶりに会いに行った時には、表情豊かに大きな声で話し、笑い、元気だった頃の「じいじ」を思いだし、胸が熱くなりました。その時の様子を見ていた職員さんから「今まで見たことのない良い表情でしたね。お孫さんの力はすごいですね」と言っていただきました。

いつも夫の身体と精神面をよく理解していただき、的確な対応をして下さる先生や職員の方々には心より感謝しております。



# The 病棟



## 認知症看護認定看護師実習生を受け入れました

当院は県内の認知症医療の中核機関として認知症に関する介護教育事業に力を入れており、その一環として、学生実習の受け入れを行っております。今回は石川県立看護大学キャリアセンターの認知症看護認定看護師教育課程臨床実習の実習生4名が、11月13日から12月15日まで当院において実習に取り組みました。



自発性や活動性が乏しく静かに過ごされる方なので少しでも活動性を上げようと本人の出来る事を勧めました。「塗り絵と写経のどちらが良いですか？」の声掛けに、笑顔で「写経」と答えられるようになりました。



### 実習生の感想 石川県 H・M

病棟内でもパーソン・センタード・ケアの理念が共有されており、こうした理念の共有が、日々のより良いケアに繋がっているのだと感じました。ケアに行き詰まり悩むこともありましたが、職員の皆様方のアドバイスやご協力を頂きながら楽しく実習を行う事ができました。有難うございました。



本人にとって居心地の良い場所と思える関わりをしました。テーブルに名前をつけ食事やゲームをこの場所で行い同席した方と過ごすことで1人で過ごす時間を減らすよう関わりました。



今回すでに県内外の医療機関で活躍している看護師を実習生として受け入れたことにより、私達スタッフも初心に戻るいいきっかけとなり、刺激を与えられました。これからも心あたたまる看護、介護に取り組んで参ります。

## 今年初の病棟訪問

寿司職人さんに、目の前で新鮮なネタを握っていただきました。職人さんの手が追いつかないほどの長蛇の列!!次々とおかわりされて大盛況でした~☆



福井県立すこやかシルバー病院 講演会

# 「認知症予防のライフスタイルと 認知症になっても安心なまちづくり」

平成29年11月23日(木・祝)に、福井商工会議所ビル、コンベンションホールにおいて、福井県立すこやかシルバー病院講演会が開催されました。群馬大学名誉教授、認知症介護研究・研修東京センター センター長の山口晴保先生を講師に迎え、「認知症予防のライフスタイルと認知症になっても安心なまちづくり」をテーマにご講演いただきました。



講演では、脳の老化を遅らせるためのライフスタイル（肉より魚と野菜の食事を腹八分目で摂取、少量の赤ワイン摂取、週2回は汗をかくほどの運動等）の説明、認知症の方への接し方（触れること、褒めること、ポジティブ感情で小さな幸せを感じること、各施設の取り組み等）、認知症があってもなくても持てる力を発揮できるような場の重要性、を中心としたお話がありました。

後半、認知症の方の妄想体験に関する場面では、司会を務めた当院作業療法士の内藤明美とともに、講演が進められました。認知症の方が妄想の訴えを

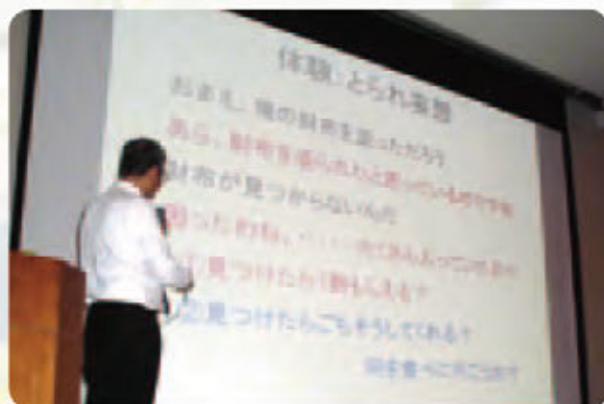
された時、落ち着けるような声かけとして、共感的態度、相手の言葉を繰り返す等、対応について教えていただきました。

アンケート結果では、長寿と認知症の関係の話聞いて、認知症に対する考え方が変わった、介護関係の仕事でイライラしている状態を見直すべききっかけになった、ポジティブな気持ちで生活したいという意見が目立ち、大変良かったという感想の方が多くいらっしゃいました。

天候の悪い中、多くの方にご参加いただいたことに、心よりお礼申し上げます。現在、来年度の講演会の準備を進めております。皆様のご参加、お待ちしております。



休憩時間の脳活性化  
リハビリテーション指導



左より橋協理事長、村田診療部長、山口先生、伊藤院長

# すこやか探検隊

## 家族会紹介

当院には、認知症の方を介護する家族を支援する家族会「ふくいすこやかかたろう会」があります。1・2・8月を除く、年9回、第2土曜日に家族会を開催しております。家族会には、認知症の方の介護家族のほか、認知症の方の介護に携わっている専門職、認知症に関心のある方などが参加できます。当院の外来や入院施設等を利用していない方でも参加可能です。年会費2千円（イベント等により別途材料費等が必要なときもあります）で、家族会への参加のほかに、毎月の案内が郵送されます。一度試しに参加されてみて、継続参加をご希望の場合は、ご入会ください。

参加をご希望の方は、当院 地域連携室（TEL.0776-98-2700）までご連絡下さい。



昨年12月の家族会では、講師を招き、コーヒーの淹れ方講座を開催しました。コーヒーを味わい、日頃のストレス解消ができました。



福井大学医学部管弦楽団による演奏会の様子

家族会「ふくいすこやかかたろう会」では、介護家族の方の「わかちあい」を目的に、「癒しの時間」「座談会」を設けています。みなさん一緒に参加してみませんか？ご連絡お待ちしております。

## 日々の認知症介護への変化

介護者にとって家族会は精神的な安定や学びの場であり、介護に向かうエネルギーを得ることができます。

## 家族会の目的



## 介護の知識を得られる

認知症介護の専門職からのアドバイスとは異なり、実際の自宅で介護している家族からの経験談が具体的であり、介護の知識として得ることができます。

## 共感・仲間づくり・ストレス解消

同じ境遇を持つ人との交流は大切です。同じ困難を抱えていないと分かち合えない気持ちがあります。家族会で「わかちあう」ことでストレスを発散することができます。

## 認知症カフェ『心愛』

今回は、病院を出て、福井市洩町にある認知症カフェ『心愛』へお邪魔してみたいと思いま〜す！

『心愛』の看板が掲げられている玄関の扉を開けると左手にカウンター席、正面にテーブル席があるこじんまりとしたあったかい雰囲気の店内です。カウンターの奥には、病院スタッフやボランティアさんがあたたかい笑顔で出迎えてくれて、心が和みます。靴を脱いでスリッパに履き替え、カウンターに座りました。店内には、利用者の方とご家族が、コーヒーを注文し、スタッフと楽しげにお話しをしていっしょにいます。しばらくすると、ある男性はカフェの片隅で囲碁を始め、ある女性は数人でテーブルを囲み編み物など手芸を楽しまれています。



クリスマス会の様子

認知症カフェ『心愛』は、自立して日常生活を送れる軽度の認知症の方やそのご家族、認知症への不安がある方に気軽に利用してもらい交流をはかることを目的としています。

『心愛』では、利用者の方が思い思いにご自分のやりたいことをして、楽しい時間を過ごしていただいています。一週間に一度みなさん、顔なじみの方に会うのを楽しみにしていっしょのようです。

『心愛』の利用を希望される方（当院へ通院されていない方でも大歓迎！）は、あらかじめ平日に病院の方へご連絡ください。



心愛では  
暑さ忘れるおもてなし



利用者様の作品

### 《スタッフからのひと言》

心愛では、利用者の方に思い思いに過ごしていただいで居心地のいい場所を提供しています。自宅に閉じこもらず一度心愛へ来店してみてください。ゆかいなスタッフがお待ちしております!!



認知症カフェ『心愛』 毎週土曜日 10:00~15:00

〈場 所〉 福井市洩3丁目1010 ループヤシロビル1階  
〈連絡先〉 福井県立すこやかシルバー病院 地域連携室 TEL0776-98-2700

飲み物 1杯100円  
(おかわり自由・お菓子付き)



# 平成29年度【平成30年3月】 福井県立すこやかシルバー病院研修案内

## 一般の方を対象にした研修 研修場所／福井県立すこやかシルバー病院 2階会議室

一般研修はお電話でお申込みできます。お名前（フルネーム、漢字）、連絡先、参加希望研修名をお伝えください。

研修名	開催日	研修時間	主な研修内容	講師	定員
認知症の基礎知識と介護のポイント	平成30年 3月2日(金)	13時30分～15時	●認知症の症状 ●認知症高齢者への介護のポイント	看護師 山神昭江	50名
認知症に関する制度と相談窓口	平成30年 3月6日(火)	13時30分～15時	●介護保険制度について ●困った時の相談窓口	精神保健福祉士 山田育弥	50名
認知症の方の食事援助、口腔ケア	平成30年 3月13日(火)	13時30分～15時	●食事摂取困難な状況と介護 ●口腔ケアの援助	介護福祉士 伊藤有香 介護福祉士 大味裕史	50名
認知症を予防しよう！	平成30年 3月14日(水)	13時30分～15時	●心も体も元気に、健康に	作業療法士 内藤明美	50名
認知症の方の症状悪化の原因を考える	平成30年 3月30日(金)	13時30分～15時	●認知症の方の症状悪化の原因として考えられるポイント	看護師長 帰山知子	50名

## ケア専門職の方を対象にした研修 研修場所／福井県立すこやかシルバー病院 2階会議室

専門職研修の申込方法は、当院ホームページ「介護教育のご案内」をご参照のうえお申込みください。  
定員を超える研修が多いため、当院ホームページで申し込み状況をご確認ください。

研修名	開催日	研修時間	主な研修内容	講師	定員
高齢者のスキンケア	平成30年 3月1日(木)	13時30分～15時	●高齢者の皮膚の特徴、スキンケア	福井県立病院 皮膚排泄ケア認定看護師 宮嶋仁美氏	50名
認知症高齢者ケア (アセスメント)	平成30年 3月9日(金)	13時30分～16時	●BPSDの原因を探るためのアセスメントの視点	認知症看護認定看護師 河合明奈	70名
認知症の方とのコミュニケーション	平成30年 3月16日(金)	13時30分～15時20分	●認知症の方と接する際に必要なコミュニケーション方法について	金城大学看護学部 講師 久米真代氏	70名
高齢者に起こりやすい認知症に類似する病態	平成30年 3月20日(火)	13時30分～15時10分	●うつ状態、せん妄、てんかん、妄想性障害の症状、治療	診療部長、医師 村田憲治	70名
高齢者の食事援助	平成30年 3月23日(金)	13時30分～16時	●高齢者の食事援助のポイント	福井県立病院 摂食・嚥下障害看護認定看護師 高澤法子氏	50名
認知症の症状を評価するための心理検査	平成30年 3月27日(火)	13時30分～16時30分	●認知症の症状を評価するための心理検査の使用目的、特徴	臨床心理士 平木聡深	70名
精神症状への対応	平成30年 3月28日(水)	14時～17時15分	●精神症状に対する具体的な対応	福井県立病院 精神看護専門看護師 山口達也氏	70名

お問合せ／福井県立すこやかシルバー病院 介護教育部 TEL (0776) 98-2700

現在、平成30年度（平成30年4月～平成31年3月）に行われる、一般研修、専門職研修の研修内容を検討中です。研修のスケジュールは、平成30年3月下旬頃出来上がる予定です。出来上がり次第、当院ホームページ（介護教育のご案内）でご案内いたします。皆様のご参加、お待ちしております。